

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：34534

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K10951

研究課題名(和文) 看護職主導による2型糖尿病未治療改善・治療中断予防プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of nurse-led diabetes self-management education program for non-treatment or dropout patients

研究代表者

白水 真理子 (Shiramizu, Mariko)

姫路大学・看護学部・教授

研究者番号：60228939

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：糖尿病の受診中断は年間8%程度と報告されている。治療の中断は合併症の進行等多くの不利益をもたらすが、糖尿病は自覚症状に乏しく、特に働き盛りの世代は治療が二の次になりやすい。そこで糖尿病の専門性を有する看護師を対象に、受診中断予防のために行っている援助について調査し、受診の障壁を低減するために、多職種と連携し多角的にアプローチしていることを明らかにした。またタイのコンケン大学看護学部の協力を得て、地域や医療者が市民による健康ボランティアと連携して取り組む糖尿病の1次・2次・3次予防の実際を見聞した。これらを患者調査の分析結果と統合し、治療中断予防プログラムの開発につなげる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

文献検討の結果、受診中断者の疫学的特徴は明らかにされていたが、医療者特に看護職による受診中断予防のための介入研究は希少であった。介入プログラムの資料を得るため、面接調査を実施した。糖尿病の専門性を有する看護師が語る受診中断ハイリスク者の特徴は、受診行動に負担感をもつ、適切なヘルスリテラシーをもたない、療養に向かうパワーが弱まっているであり、看護師特有の捉え方を明示できた。また受診中断予防のために、患者の背景や気持ちを知り支持的に関わり、受診ストレスを軽減する環境づくりに取り組んでおり、病状や経済・生活状況のみならず、self-stigmaの存在を視野に入れ関わっている点は新知見と言える。

研究成果の概要(英文)：It is reported that about 8% of patients with diabetes discontinue seeing a doctor annually. However, diabetes is a disease with few subjective symptoms, and treatment tends to be a secondary concern, especially among the working-age population. Therefore, we surveyed nurses with expertise in diabetes to determine the assistance they provide to prevent discontinuation of medical visits. The study revealed that they take a multifaceted approach in collaboration with multiple professions to reduce barriers to medical visits. With the cooperation of the School of Nursing at Khon Kaen University in Thailand, we also observed the actual primary, secondary, and tertiary prevention of diabetes that the community and health care providers are working on in collaboration with village health volunteers. These will be integrated with the results of the patient survey analysis to develop a treatment interruption prevention program.

研究分野：慢性看護学

キーワード：看護学 2型糖尿病 治療中断 糖尿病看護認定看護師

## 1. 研究開始当初の背景

糖尿病は初期症状に乏しく、検査値のみの異常である場合が多く、当事者にとって治療の必要な状態であることがわかりにくい疾患である。そのため未治療状態や、治療中断状態の患者が多いことが問題視されている。

2012年度の国民健康・栄養調査の報告では、糖尿病を指摘されたことがある者のうち、現在未治療であると回答した者の割合は38%、受診中断の割合は13.5%とされており、合併症発症・進展予防や、糖尿病医療費抑制の観点から問題視されている。

日本における「糖尿病有病者数」は約1000万人と推計されている(厚生労働省, 2019)。医療機関への受診は任意であり、受診を中断する患者は年間8%程度と報告されている(日本糖尿病・生活習慣病ヒューマンデータ学会, 2014a)。2012年から始まった健康日本21(第2次)は、糖尿病の評価項目の一つとして治療継続者の割合の増加をあげているが、2018年の中間評価では目標が達成されておらず、60歳以上と比較して50歳代未満の治療継続率は低いとされている(厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会, 2018)。また、2016年3月に策定された糖尿病性腎症重症化予防プログラムにおいて、医療機関未受診者及び受診中断者に対する受診勧奨・保健指導が実施されている。

このように受診中断者の減少は、国家レベルの糖尿病対策における喫緊の課題の一つとして重要視され、解決が求められている。受診中断予防のための方策として、2014年に糖尿病受診中断対策マニュアルと糖尿病受診中断包括ガイドが作成されている。これらはかかりつけ医に向けて作成された内容であり、有用ではあるが看護職が用いるには限界がある。したがって、受診中断ハイリスク者の傾向を捉え、看護職を含む医療従事者のどのような関わりがあれば、患者の受診継続意欲が向上し、受診中断を予防することができるのかを明らかにし、自己管理教育プログラムを開発することが必要である。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、成人期にある2型糖尿病患者のための看護職主導の治療中断予防プログラムを開発することである。

## 3. 研究の方法

(1)~(3)までの研究活動を行った。

### (1) 糖尿病の患者の治療中断に関する文献検討

研究目的は、成人期にある糖尿病患者の受診中断に関する文献のスコopingレビューにより、成人期にある糖尿病患者の受診中断に関する知見を要約し、今後の研究への示唆を得ることである。受診中断は定義が定まっておらず、体系的なシステマティックレビューを実施する段階には至っていないことから、糖尿病患者の受診中断に関する知見を総合的に扱うスコopingレビューの手法を用いた。

文献検索には、医学中央雑誌Web版(以下、医中誌とする)、PubMed、ハンドサーチを利用し検索した。キーワードを「糖尿病」「受診中断」とし、選定基準を「糖尿病患者の受診中断に関する研究 成人期の患者を対象とした研究 日本語もしくは英語で書かれた研究とした。文献選定のフローチャートはPreferred Reporting Items for Systematic Reviews and Meta-Analysis(s PRISMA)に基づいて作成した。重複している2件を除く239件のタイトルと要旨を読み、除外基準に照らしてスクリーニングした。除外基準は、糖尿病患者の受診中断に関わる研究結果を伴わない解説や特集 症例報告 本テーマと関連しない研究である。最終的に41件を分析対象とした。

### (2) 「看護師による成人期にある人への受診中断予防のための援助」の質的研究

研究目的は糖尿病療養指導に専門性を有する看護師による成人期にある人への受診中断予防のための援助を明らかにすることである。研究参加者は、糖尿病患者が通院する医療機関に勤務し、通常業務として2型糖尿病受診中断ハイリスク者への支援経験をもつ看護師25名であった。フォーカス・グループ・インタビュー(以下、FGI)をオンラインで実施し、分析は、S. ヴォーン(1999)によるFGI 質的データ分析の手法により行った。

### (3) タイ国における糖尿病医療およびケアの現状調査

タイ国コンケン大学看護学部の協力を得て、オンラインカンファランスを開催した。互いの国の医療制度や糖尿病患者への医療提供体制や取り組んでいる研究の情報交換を目的とした。またコ-ンケン県における糖尿病の1次、2次、3次医療や糖尿病ケアの現状について視察調査を行った。

## 4. 研究成果

### (1) 糖尿病の患者の治療中断に関する文献検討

分析の結果、受診中断や糖尿病教育プログラムからの脱落に関する研究が2000年以降増加しており、41件中29件が日本での調査であった。受診中断者の疫学的特徴は、男性、若年者が多いことであり、糖尿病の状態の特徴は、自覚症状がないこと、薬物療法をしていないことであ

た。また、セルフケア能力の低さや自己効力感の低下などの行動面・心理面の特徴が示されていた。受診中断経験者は、医療者との信頼関係の構築や自身への理解を求めるとともに、具体的な療養指導を求めている。

受診中断の研究は、特に日本で注目度が高く、国の政策として受診中断予防が重要視されている状況がある。受診中断者は、疫学的、経済的要因に加え、セルフケア能力や自己効力感の低下に関連した複数の中断要因が相互に強化されて受診中断に至ることが示唆された。受診中断経験者が求める支援を考慮することが受診中断の抑制につながる可能性がある。また、記述研究が多くを占めていることから、受診中断者の特徴や傾向をふまえた支援策を体系化し、評価するデザインの研究が必要である。

## (2) 「看護師による成人期にある人への受診中断予防のための援助」の質的研究

研究協力者の多くは、糖尿病看護認定看護師であり、6グループ全ての基本的考えとして、糖尿病患者の受診中断を予防したいと願い、対策を取っていた。

受診中断ハイリスク者の特徴として、11 カテゴリと3大カテゴリが抽出された。大カテゴリは、【受診行動に負担感をもつ人】【糖尿病に関する適切なヘルスリテラシーをもたない人】【療養に向かうパワーが弱まっている人】であった。これらは文献検討から導き出された特徴とは視点が異なり、人の反応を全人的にとらえての特徴と言える。

受診中断予防のための援助は、24 カテゴリ 5 大カテゴリが抽出され、『受診の障壁を低減するために多角的にアプローチする』をコアカテゴリとした。大カテゴリは、【患者の背景や気持ちを知り支持的に関わる】【患者に合わせて指導にメリハリをつけながら関わる】【最適な受診勧奨方法を模索する】【受診ストレスを軽減できる環境を作る】【保健・医療・福祉の専門職と協働し受診を継続・再開できる体制を作る】であった。

受診中断予防の課題として10 カテゴリ 4 大カテゴリが抽出された。大カテゴリは【必要な人に支援が行き渡らない】【患者を支えるために必要な連携が難しい】【受診中断ハイリスク者の特定が難しい】【受診勧奨が難しい】であった。

糖尿病療養指導に専門性を有する看護師は、経験や知識を基盤として、患者の醸し出す雰囲気や言動から受診中断ハイリスク者を捉えていた。経済的状況や就労等による生活状況のみならず、self-stigma (加藤, 2021) の存在を考慮していた。成人期にある患者が社会的役割と糖尿病のセルフケアのバランスを維持することの困難さに配慮した上で、糖尿病に関わるヘルスリテラシーを向上できるよう、患者との距離感を測りながら、関わりと支援の適期と内容を見極めていた。また、自分の裁量の範囲内や糖尿病チームを活用してできる工夫を駆使し、受診に関わるストレスを軽減しようとしていた。さらには、患者の治療継続を最優先とし、自施設にこだわらない広い視点で、保健・医療・福祉の専門職と協働し、患者の受診継続につなげていた。

## (3) タイ国における糖尿病医療およびケアの現状調査

国立病院では、糖尿病患者に対する医療体制、外来における糖尿病ケースマネジャー看護師の活動および入院患者のケア、病棟と外来、地域との連携による患者支援、スタッフの教育の視察を行った。プライマリケアセンターでは、一般市民の糖尿病スクリーニング、ヘルスプロモーション、リスク患者の病診連携の視察を行った。郊外の公立病院では、糖尿病専門外来での多職種連携、ケースマネジャー看護師の活動を視察した。ヘルスプロモーション病院では、行政との連携、村落ヘルスボランティア(以下VHV)の活動の視察を行った。実際にVHVと対面し、活動への思いを聞くことができた。

LINEの活用が盛んであり、病診連携のための患者情報の共有また、病院とケアセンターのスタッフ間、ケアセンターのスタッフとVHV間、患者と病院、ケアセンタースタッフ間、ボランティア間などで情報伝達や共有を行い、療養継続支援を行っていた。

タイ国は1980年代後半から急速に経済成長し、食生活や生活スタイルの変化により生活習慣病が急増し保健医療分野での課題は、「感染症」から「慢性疾患」へと移行してきた。タイ保健省は生活習慣病対策政策を打ち出し、糖尿病対策のモデル病院を指定し一般市民のスクリーニングの実施、リスク者を対象に糖尿病教育を実施し効果検証を行っている。

一般市民のスクリーニングや療養継続のフォローにはタイに特徴的なVHVとICT活用の貢献が大きく、地域全体でのヘルスプロモーションの気運の高まりが伺えた。日本では、個人情報保護の観点や干渉されることへの煩わしさなどが療養継続支援の障壁となっているが、国民性の違いや国の施策に一丸となって取り組む社会性の違いが感じられた。また、2002年に導入された無保険者を対象とした30パーツ医療保険制度により、ほぼ全国民が何らかの保険制度にカバーされており、現在は30パーツ医療保険の自己負担が廃止されていることも受診継続、受診中断予防の要因となっていると考えられる。

### 引用文献

厚生労働省.(2019).令和元年国民健康・栄養調査報告.

<https://www.mhlw.go.jp/content/000710991.pdf>

日本糖尿病・生活習慣病ヒューマンデータ学会,(2014).糖尿病受診中断対策包括ガイド,[http://human-data.or.jp/wp/wp-content/uploads/2018/07/dm\\_jushinchudan\\_guide43\\_e.pdf](http://human-data.or.jp/wp/wp-content/uploads/2018/07/dm_jushinchudan_guide43_e.pdf)

加藤明日香.(2021).self-stigma(セルフスティグマ)が糖尿病療養に及ぼす影響,糖尿病プラクティス,38(2),190-195.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>奥井良子, 白水真理子, 間瀬由記, 安藤里恵, 中原慎二, 谷口綾子. | 4. 巻<br>42          |
| 2. 論文標題<br>健康教育イベントへの参加が身体活動および健康関連QOLに与える影響   | 5. 発行年<br>2022年     |
| 3. 雑誌名<br>日本看護科学学会誌                            | 6. 最初と最後の頁<br>81-90 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                 | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難         | 国際共著<br>-           |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>安藤里恵                                | 4. 巻<br>15(1)       |
| 2. 論文標題<br>受診中断経験をもち合併症を有する2型糖尿病患者の受診再開後の療養生活 | 5. 発行年<br>2021年     |
| 3. 雑誌名<br>日本慢性看護学会誌                           | 6. 最初と最後の頁<br>31-39 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難        | 国際共著<br>-           |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>白水真理子   | 4. 巻<br>68(5)       |
| 2. 論文標題<br>身体活動の活発化からアプローチする糖尿病予防 糖尿病患者の身体活動実態調査と市民対象の健康教育イベントの実施結果より | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>都市計画  | 6. 最初と最後の頁<br>30-33 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし  | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                                | 国際共著<br>-           |

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>安藤里恵, 白水真理子, 間瀬由記.                         |
| 2. 発表標題<br>糖尿病療養指導の専門性を有する看護師による成人期にある人への受診中断予防のための援助 |
| 3. 学会等名<br>第27回日本糖尿病教育・看護学会学術集会                       |
| 4. 発表年<br>2022年                                       |

|                               |
|-------------------------------|
| 1. 発表者名<br>安藤里恵, 関根聡子, 白水真理子. |
| 2. 発表標題<br>糖尿病患者の受診中断に関する文献検討 |
| 3. 学会等名<br>日本看護科学学会第40回学術集会   |
| 4. 発表年<br>2020年               |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>安藤里恵, 白水真理子, 間瀬由記, 奥井良子.                  |
| 2. 発表標題<br>血糖測定フェア参加者のアクションプラン実施状況に影響する要因と身体活動活発化の効果 |
| 3. 学会等名<br>日本看護科学学会                                  |
| 4. 発表年<br>2019年                                      |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                      | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)                    | 備考 |
|-------|--|--|----|
| 研究分担者 | 安藤 里恵<br><br>(Ando Rie)<br><br>(50438090)      | 神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・講師<br><br><br>(22702) |    |
| 研究分担者 | 関根 聡子<br><br>(Sekine Satoko)<br><br>(30464522) | 神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・講師<br><br><br>(22702) |    |
| 研究分担者 | 奥井 良子<br><br>(Okui Ryoko)<br><br>(10554941)    | 駒沢女子大学・看護学部・准教授<br><br><br>(32696)       |    |

6. 研究組織（つづき）

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                        | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)                               | 備考 |
|-------|--|---|----|
| 研究分担者 | 中原 慎二<br><br>(Nakahara Shinji)<br><br>(40265658) | 神奈川県立保健福祉大学・ヘルスイノベーション研究科・教授<br><br><br><br>(22702) |    |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関                                |  |  |
|---------|--|--|--|
| タイ      | School of Nursing Khon Kaen University |  |  |